

平成 30 年 3 月 3 日

北海道大学 北極域研究センター長 殿

氏 名 高橋 美野梨

終了報告書

・派遣支援先 機関名： オールボー大学 (国名： デンマーク王国)

・受入研究者 Lill Rastad Bjørst

・研究課題名 (和文・英文)

(和文) デンマーク国家北極政策史研究

(英文) A Study of the History of Danish Realm's Arctic Policy

・派遣支援期間：平成 29 年 3 月 20 日 ～ 平成 30 年 2 月 1 日

1. 派遣支援期間中の研究実施状況及びその成果
2. 派遣支援期間中の研究発表概要
3. 派遣支援期間中の受賞歴
4. 派遣支援期間中のアウトリーチ活動

1. 派遣支援期間中の研究実施状況及びその成果

＜研究計画に基づき何をどこまで実施したか＞

中間報告（URL1）の中でも述べたように、若手派遣支援期間中の私の研究は、2008年の報告書『転換期の北極（Arktis i en brydningstid）』を基に2011年に発表されたデンマーク国家初の『デンマーク王国北極戦略 2011-2020（Kongeriget Danmarks Strategi for Arktis 2011-2020）』（以下：『戦略』）の論理と背景を実証的に明らかにすることにありました。この作業は、一国の北極戦略を研究することのみならず、こうした帰納的方法によって北極政治全体のパワーバランスの一端を可視化させることにも向けられていました（後述のように、2018年中に拙編著を刊行予定）。

● <URL1>

<https://blog.arcs-pro.jp/2018/01/28aau-circlaaau-arctic.html>

『戦略』には、主要政策目標が2つ掲げられています。一つは、グリーンランドの発言権＝自治権を尊重し、それを拡張させていくこと。もう一つは、北極の主要プレーヤーとしてデンマーク国家の地位を確実なものにすることです。目を向けたのは、両者を結び付ける場として、さらには将来的な北極協力のハブ／協調プラットフォームとして設定されたのが、第二次世界大戦期に端緒を開き、今日ではミサイル防衛拠点として機能する北極域最大規模の米空軍基地＝チューレ空軍基地だったことです。チューレは、軍事的利用のみならず、より広範な用途に使用されることが期待されており、またそのポテンシャルも十分にあることが認識されています。ポテンシャルというのは、北西部グリーンランドの厳しい自然環境に対応した港、タンク・貯蔵施設、工場、病院、宿泊施設など、既にチューレに存在するインフラの援用可能性を意味しています。近年のグリーンランド氷床の融解などに伴う環境変化によって、資源採掘やシーレーンの商業的利用可能性の高まりの中で、グリーンランドを含む北極域での活動は必然的に増加するものと解されており、チューレは、諸施設・部隊のハブとして機能することが期待されていると同時に、『戦略』の核をなす存在としても位置付けられたということです。逆に言うと、北極海と地理的に近接していないデンマーク本国は、地理的に近接する自治領グリーンランドの持つ機能を持ってしか北極へのアクセスを法的に確保できず、こうした地理的近接性と法的近接性の狭間＝地理的近接（geographical neutrality）の立場から、北極に対する自身の国家戦略を策定していかなければならないといえるわけです。つまり、デンマーク本国は、デンマーク国家としてでしか、北極へのアクセス権を持たないというこ

とです。それを成り立たせる上で意味を持つ（持たせようとした）のがチュールレであることから、派遣支援期間中は、主にチュールレの運用をめぐる戦後史に焦点をあてつつ、『戦略』の論理と背景を実証的に明らかにしていくことを目指しました。

作業は、3つの段階をふみました。第一に、米軍基地の配置が試みられ、実際に運用・展開されていくこととなる第二次世界大戦から冷戦期におけるグリーンランド米軍諸施設に関するデンマーク、グリーンランド、米国それぞれの文献資料／史料の収集及び整理を行い、その歴史と争点を検討しました。また、デンマーク国際問題研究所 (DIIS) やグリーンランド自治政府代表部などでの研究者、外務省、グリーンランド自治政府外務局などでの政策決定者、さらにはチュールレ空軍基地が置かれるグリーンランド・カナック地方の現地住民などへのインタビューを加味することで、本派遣中の研究の輪郭を同定しました。

第二に、デンマークおよびグリーンランドでのフィールドワークを継続させ、実証データの積み上げを図ることに加えて、米国議会の動向を加味し、チュールレの運用をめぐる政治力学を明らかにすべく取り組みました。また、近年のチュールレは、北極海の海氷融解とそれに伴う利権問題の影響で、戦闘機や即応部隊を含む「北極部隊」の本営としても位置付けられていることから、そこにグリーンランド（下位国家主体）がどのように関与していけるかについても調査・分析を行いました。

第三に、デンマークでの政策決定者へのフォローアップ調査を行いつつ、上記2つの作業で得た知見に基づき、チュールレが有する価値と、期待される効果を導出しました。『戦略』では、国際協力のハブ・プラットフォームとして機能することが期待されているチュールレでもあるため、その実現可能性についても検討対象としました。

<どのような成果が得られたか>

主たる成果は、下記の拙編著にまとめ、2018年中に出版される予定です。

TAKAHASHI, Minori (ed.) (Forthcoming). *The Influence of Sub-State Actors on National Security*. Springer.

- Introduction: The Influence of Sub-state Actors on National Security (Minori Takahashi)
- Chapter 1: The political stability of military bases in democratic states: Vulnerability and the hold-up problem (Shinji Kawana)
- Chapter 2: Greenland's Quest for Autonomy and the Political Dynamics Surrounding the Thule Air Base (Minori Takahashi)

- Chapter 3: How Has the U.S. Interests in Greenland Changed?: Reconstructing the Value Perception over Thule Air Base after the Cold War (Kousuke Saitou)
- Chapter 4: The Arctic and Russia: Russia's security policy for the Arctic (Yu Koizumi)
- Chapter 5: Collision of Autonomy and National Security: Okinawa's Challenge and Tokyo's Commitment to the Alliance (Shino Hateruma)
- Chapter 6: On the Philippines [title to be decided] (Ayae Shimizu)
- Conclusion: Title to be decided (Minori Takahashi + Shinji Kawana)

また、若手派遣支援期間中の研究内容およびその間に実施した研究活動については、滞在先のオールボー大学 CIRCLA (**写真 1**) によって、下記の記事としてまとめて頂きました。(URL2)

<写真 1>



● <URL2>

<http://www.en.cgs.aau.dk/news/news-show/visiting-arctic-scholar--minoritakahashi.cid342094>

加えて、「2. 研究発表概要」及び「4. アウトリーチ」に全ての成果をあげましたが、下記のセミナーは、本派遣に係わる直接的な成果として挙げる事ができます。

- TAKAHASHI, Minori, Shinji Kawana, Kousuke Saitou, Yuu Koizumi. "International Political Science Research on Security in the Arctic". Arctic Politics

Research Seminars 2017. Aalborg University in Sydhavn (Copenhagen), Denmark.
December 8, 2017. (写真2) (URL3)

● <写真2>

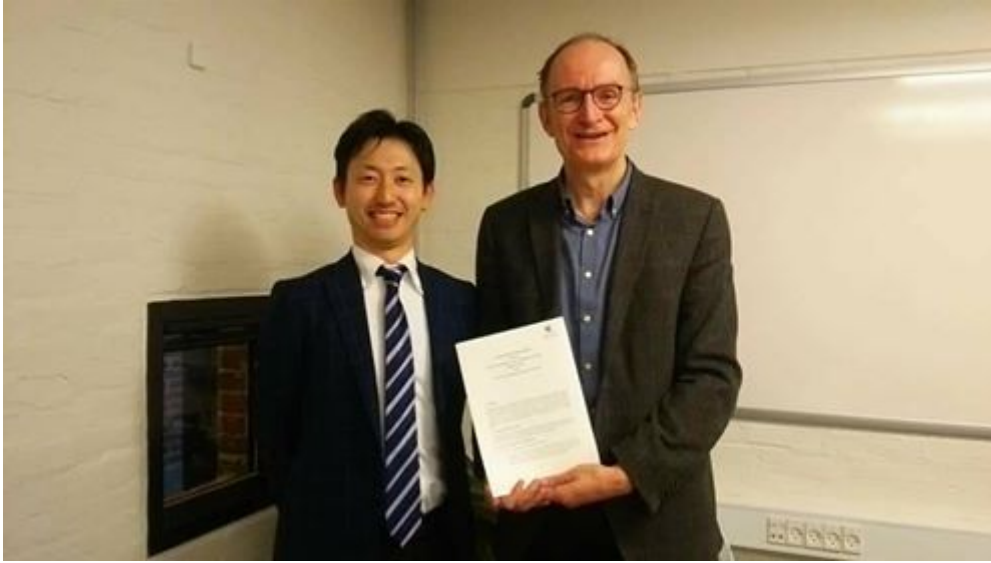


● <URL3>

www.en.cgs.aau.dk/research/research-groups/circla/events/event+show/invitation-to-arctic-politics-seminar---december-2017.cid318189

さらに、若手派遣プログラムの活動内容に明記されている「自身が派遣先で獲得した知見と人脈を活用する」、「知識の定着とネットワークの維持・強化を図る」をふまえて、滞在先のオールボー大学北極域研究プラットフォーム（AAU CIRCLA/AAU Arctic）と、北海道大学北極域研究センター（ARC-HU）との間で部局間交流協定（MoU）を締結することができたことも、今後の協働に向けた礎を築くことができました（写真3）（写真4）。この枠組みを用いて、2018年7月5-6日に開催予定のスラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウムには、AAU Arctic の研究者の招聘を検討しています。

● <写真 3>



● <写真 4>



<研究成果要点>

第一に、戦後デンマーク国家の北極へのアクセスは、在グリーンランド米軍基地＝チューレ空軍基地を中心に展開されてきた、少なくともチューレは極めて重要な説明変数として機能していたことを明らかにしました。チューレは、デンマーク政府が米国に提供しうるほとんど唯一の政治的取引財であり、デンマークが抱え込んだ米国への安全保障上の依存は、ひるがえってグリーンランドに対する脆弱性をもたらした、言うことができます。

➤ 作業プロセスとしては、米国の海外基地政策と、それを受け入れる国家、ま

た基地が配置される下位国家主体とを議論するための理論的枠組みをふまえ本研究の射程を同定しました。その上で、米軍基地の配置が試みられ、実際に運用・展開されていくこととなる第二次世界大戦から冷戦期におけるグリーンランドを跡付け、2000年代にチューレのミサイル防衛拠点化を介してグリーンランドが自治権を拡張させていくプロセスを、①グリーンランド自治議会、②デンマーク議会それぞれの議論を読み解くことで実証しました。

第二に、主たる分析対象であるデンマーク国家のみならず、基地設置国である米国がどのような戦略的関心を有し、グリーンランド、延いては北極安全保障を見据えていたのか、地域大国ロシアはこうした動きにどのような反応を示していたのかについても、マルチアーカイブによる多角的アプローチから明らかにすることを目指しました。同時に、米国の海外基地政治と接受国政体とのインタラクションの参照軸として、沖縄とフィリピンの事例を本研究に組み込むことで、ローカルの声＝自己の行動を律する意思（自律）と、それを具体的に行動に表す（自己統治）存在としての声が、米国の海外基地をめぐる政治的諸相＝国家安全保障のレベルで、どのように発現し、機能したのかを明らかにしました。

➤ 別の言い方をすれば、ここでは、接受国（地域）域内の政策決定過程や本国の国内政治力学と同時に、設置国である米国、潜水艦の派遣・配備、海軍基地の設置やその設備更新など、軍事活動を活発化させるロシアの基地・北極域戦略をも説明変数として組み込みました。それは、チューレの存立は、グリーンランド域内の政策決定過程だけを見れば説明され得るものではなく、デンマーク国内の政治力学と同時に、基地をめぐる国際政治動向に多分に影響を受けるものだからです。さらに、米国の海外基地政治と接受国政体とのインタラクションの参照軸として扱う沖縄とフィリピンめぐる考察を通して、ローカルの声が、米国の海外基地をめぐる政治的諸相＝国家安全保障のレベルで、どのように発現し、機能したのかを明らかにしました。

第三に、チューレの存立目的の多様化について、デンマーク国家と米国双方向から明らかにしました。そもそも、北極域は科学研究のための空間として長らく位置付けられており、多くの地質調査や海洋調査が執り行われていました。また、チューレの運用をめぐるのは、冷戦後の基地の「特殊性」の可変化（基地の役割を軍事目的に限定させることへのインセンティブの低下）という文脈の中で、少なからぬ関心が向けられており、近年ではこうした流れを汲みつつ、チューレの科学研究拠点としての利用が『戦略』にも明記されました。この点に関する成果の一部は、私がとりまとめ役（改訂ワーキンググループ委員）を務めている下記の報告書の中でも明らかにされることになります。

- 「テーマ7：北極環境変化の社会への影響」、(北極環境研究コンソーシアム編)『改訂版 北極環境研究の長期構想』北極環境研究コンソーシアム、2018年3月予定。

2. 派遣支援期間中の研究発表概要

<論文発表>

1. 編著

- ◆ TAKAHASHI, Minori (ed.) (Forthcoming). *The Influence of Sub-State Actors on National Security: International Political Science Research on Security in the Arctic*. Springer.

2. 共著

- ◆ 高橋美野梨、池田元美、高倉浩樹、立澤史郎、齊藤孝祐、荒木田葉月、大塚雄一、齊藤誠一、佐藤篤司、坪井誠司、早坂洋史、松村寛一郎、三好由純、山ロー「テーマ7：北極環境変化の社会への影響」、(北極環境研究コンソーシアム編)『改訂版 北極環境研究の長期構想』北極環境研究コンソーシアム、2018年3月予定。
- ◆ 高橋美野梨「水産資源の利用と保護」、(佐藤史郎、川名晋史、齊藤孝祐、上野友也共編)『日本外交の論点』法律文化社、2018年3月予定、pp.273-282。
- ◆ 高橋美野梨、齊藤孝祐、川名晋史、小泉悠「北極域の安全保障をめぐる国際政治学的研究」、『三菱財団：第45回人文科学研究助成・研究事業報告書』2018年3月予定。
- ◆ 高橋美野梨「北極をめぐる政治」、(北欧文化協会、バルト=スカンディナヴィア研究会、北欧建築・デザイン協会共編)『北欧文化事典』、丸善出版、2017年10月、pp.68-69。
- ◆ 高橋美野梨「グリーンランドの政治経済」、(北欧文化協会、バルト=スカンディナヴィア研究会、北欧建築・デザイン協会共編)『北欧文化事典』、丸善出版、2017年10月、pp.70-71。
- ◆ 高橋美野梨「グリーンランドの対外関係」、(北欧文化協会、バルト=スカンディナヴィア研究会、北欧建築・デザイン協会共編)『北欧文化事典』、丸善出版、2017年10月、pp.72-73。

3. 論文

- ◆ TAKAHASHI, Minori (Forthcoming). “Introduction: The Influence of Sub-State Actors on National Security”. *The Influence of Sub-State Actors on National Security: International Political Science Research on Security in the Arctic*. Springer.
- ◆ TAKAHASHI, Minori (Forthcoming). “Chapter2: Autonomy and Security: Greenland’s Right to Self-Determination and the Thule Air Base”. *The Influence of Sub-State Actors on National Security: International Political Science Research on Security in the Arctic*. Springer.

- ◆ TAKAHASHI, Minori and Shinji Kawana (Forthcoming). “Conclusion”. *The Influence of Sub-State Actors on National Security: International Political Science Research on Security in the Arctic*. Springer.

<学会発表>

- ◆ TAKAHASHI, Minori. Hokkaido University – Umeå University Exchange Seminar (Umeå University, Sweden). “The Influence of Sub-State Actors on National Security”. 口頭. March 1, 2018.
- ◆ OSABE Taro, Jun Fukuda, Toshihiko Hara, Fujio Ohnishi, Natsuhiko Otsuka, Sei-ichi Saitoh, Atsuko Sugimoto, Minori Takahashi, Masato Tanaka, Shingo Tanaka and Hiroyuki Yasunaga. The 33rd International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans (Mombetsu Citizens’ Hall, Japan). “Future Scenarios for Arctic 2050”. 口頭. February 18-21, 2018.
- ◆ 高橋美野梨. 北極域をめぐる国際関係・安全保障環境の変化：今、北極で起きていること（J-ARC Net=ARC-HU=HIECC 共催企画：北海道大学学術交流会館第一会議室）、「グリーンランドと米国：グリーンランドは米軍基地とどう向き合ってきたのか」、口頭、2018年2月7日。
- ◆ TAKAHASHI, Minori. ISAR-5: Fifth International Symposium on Arctic Research (Hitotsubashi Hall, Japan). “Climate Change and Transformations in the Security Environment”. 口頭. January 16, 2018.
- ◆ TAKAHASHI, Minori, Shinji Kawana, Kousuke Saitou, Yuu Koizumi. Arctic Politics Research Seminars 2017 (Aalborg University in Sydhavn - Copenhagen, Denmark). “International Political Science Research on Security in the Arctic”. 口頭. December 8, 2017.
- ◆ TAKAHASHI, Minori. AAU-CIRCLA meeting (Aalborg University, Denmark). ”Feltarbejde i Grønland foråret 2017”. 口頭. November 14, 2017.
- ◆ TAKAHASHI, Minori. UArctic: University of the Arctic Rectors' Forum (University of Aberdeen, Scotland). “Panel3 (Panelist): How can the knowledge and wisdom of northern peoples help to shape the agendas for future circumpolar research?”. 口頭. August 25, 2017.
- ◆ TAKAHASHI, Minori. AAU-CIRCLA meeting (Aalborg University, Denmark). “Exploring Maritime Areas as a Political and Historical Space”. 口頭. May 16, 2017.
- ◆ TAKAHASHI, Minori. ASSW: Arctic Science Summit Week 2017 (Clarion Congress Hotel Prague, Czech Republic). “Participating in International Negotiations as an Internal Constituent: The Debate regarding Greenland's Role in the US Missile Defense”. 口頭. April 5, 2017.

3. 派遣支援期間中の受賞歴

なし

4. 派遣支援期間中のアウトリーチ活動

<アウトリーチ>

- ◆ 高橋美野梨 「書評：屋良朝博、川名晋史、齊藤孝祐、野添文彬、山本章子共著『沖縄と海兵隊：駐留の歴史的展開』、『境界研究』第8号、2018年3月予定。
- ◆ 高橋美野梨 「ASSW2017 Session21A 参加報告」、『北極環境研究コンソーシアム (JCAR) ニュースレター』第7号、2018年1月、p.17。
- ◆ 高橋美野梨 「写真とめぐる旅 35：絶海に浮かぶ北の孤島 フェロー諸島」、『地理・地図資料』2017年度3学期号、2018年1月、p.3。
- ◆ 高橋美野梨 「平成28年度若手研究者海外派遣・中間報告：オールボー大学北極研究グループ (AAU-CIRCLA/AAU Arctic) に滞在して (A Mid-term report on ArCS' program for overseas visits by young researchers)」、『ArCS 通信/ArCS Blog』、2018年1月。
[日本語] <https://blog.arcs-pro.jp/2018/01/28aau-circlaaau-arctic.html>
[英語] <https://blog.arcs-pro.jp/en/2018/01/aauarctic.html>
- ◆ 高橋美野梨 「北極圏大学 (UArctic) 学長フォーラムに参加して」、『スラブ・ユーラシア研究センターニュース』第151号、2017年11月、pp.9-11。
- ◆ 高橋美野梨 「2017年北極圏大学・学長フォーラム報告 (A Report from the 2017 UArctic Rectors' Forum)」、『ArCS 通信/ArCS Blog』、2017年10月。
[日本語] <https://blog.arcs-pro.jp/2017/10/2017uarctic.html>
[英語] <https://blog.arcs-pro.jp/en/2017/10/UArcticforum.html>